1986年8月15日

日本細菌学会

関東支部ニュース

第4号

第55回日本細菌学会関東支部総会報告

総会長　吉　川　昌之介（東大・医科研）

昭和61年6月2日(月)，渋谷の東邦生命ホールにて上記支部総会が行われた。総会長の考え方として(1)最近のバイオテクノロジーの進歩に基盤をおいた講演，(2)基礎的なことと医学的応用面の両方にまたがったものにすること，(3)必然的に学際的になるから他学会からなるべく多くの演者を招くこと，(4)1人当りの講演時間を十分にとることの4点に重点をおくことにした。午前中は「病原細菌学における分子遺伝学的アプローチ」の主題のもとに山本達男博士（順天堂大・医）「コレラ菌と毒素原性大腸菌」，笹川千尋博士（東大・医科研）「赤痢菌の細胞侵入にかかわる大プラスミド」，大坪栄一博士（東大・応微研）「トランスポゾンと病原細菌」，沓掛和弘博士（東大・理）「サルモネラの相変異」の4講演をしていただいた。午後は「バイオテクノロジーの現状と感染症の予防・治療の将来像」の主題のもとに大友信也博士（化血研）「細菌ワクチン，特にコレラを中心として」，松原謙一博士（阪大・細胞工学センター）「B型肝炎とワクチンデザイン」，鈴木守博士（群大・医）「マラリアワクチン研究現状におけるバイオテクノロジーの威力と限界」，橋本一博士（群大・医）「細菌感染症化学療法の将来」の4講演をうかがった。総会長としては各演者の長年の御研鑽の総決算ともいうべき内容豊富な講演をしていただいたことに深く感謝している。参加会員も廊下にほとんど人かげをみない程の熱心さで，会場には熱気があふれていた。その意味で会は成功であったと自賛している。プロジェクターの故障などの他，手落ちも多々あって御迷惑をおかけしたと思うが，多くの方々の御協力で当初の目的を達成できたことに心から感謝のことばをもってペンを置きたい。

Shayegani 博士を迎えての学術集会

和　気　　朗（予研・細菌部）

5月19日，*Yersinia enterocolitica* の中でも特別にvirulenceが強く"アメリカ型"ともよばれる08型のニューヨーク州における流行を体験されたニューヨーク州立衛生研究所のMehdi Shayegani 博士が訪日されたので，細菌学会関東支部の御支援を得て国立予防衛生研究所第一会議室で"*Yersinia enterocolitica* の疫学と病原性"と題するセミナーが開催された。約20名の参加を得て討論も活発であった。ニューヨーク州各地区から6000以上の検体を採取して検査したが，08型はヒト検体や汚染食物から分離され，野生動物ではギンギツネ，ヤマアラシ各一匹から分離されたのみで，家畜や表層水からは分離されなかった。

カルシウム依存性，自家凝集，HeLa細胞附着性，プラスミド像，マウス致死性を調べた。

ある場合には42Mdal プラスミドを有しながら病原性を示さない株もあった。これら菌の食細胞内の動態も研究した。

第56回関東支部総会に寄せて

第56回関東支部総会
会長　寺　脇　良　郎（信大・細菌）

伝統ある日本細菌学会関東支部総会をこの度担当させて頂くことゝなりました。弱輩の私にとり，大変な名誉であると共に重責であります。秋の総会は11月中旬開催がほゞ通例になっていますが，御承知の如く松本は標高600米の高地にある関係上，秋の深まりが早いため，会期は10月16日(木)，17日(金)の両日と致しました。会場は，松本駅から徒歩10分余りの松本市中央公民館（四柱(しはしら)神社境内）で，すぐ近くには国宝に指定されている松本城があり，松本市の中心部にあると言って良いでしょう。

さて，本総会では一般演題のほか，特別講演とシンポジウム各1を企画し，東大医科研・金ケ崎士朗教授に「細菌感染における食細胞の役割」と題して，特別講演をお願いしました。感染初期における食細胞の役割の重要性は，近年ますますクローズアップされて来ています。金ケ崎教授の多年に亘るこの方面のお仕事を，レビュー形式で広く紹介して頂くことになっています。

またシンポジウムは，橋本一，後藤延一両博士の司会による「新しい細菌遺伝子産物／細菌構築物」を，同封プログラムの要領で行うことになりました。統一した一つの主題ではありませんが，細菌学の一つのあるべき姿として，いろんな現象の根底にある“物質”をきちっと抑え，機能と関連づけることが重要であろうと考えての企画であります。若い4人の演者の熱演に期待しています。

一般演題は，会期が例年より1カ月も早かったにも拘らず23題が寄せられ，大変感謝しています。講演10分，討論3分計13分を1題に当てることにしました。座長と演者の方々，どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお，学会第1日終了後，松本城正面入口脇にある第1会館にて懇親会を開催致します。学会場より徒歩約5分の近くにあります。皆様多数御参加下さい。10月中旬は当地の最も美しい季節です。紅葉は上高地への渓谷沿い，黒四ダムのある扇沢，あるいは湯量豊富な中房温泉への道中などすばらしいものがあります。木曽谷，白馬山麓なども遠くありません。多数の皆様の学会への御参加を，心からお願い申し上げます。

パラチフスBの取り扱い変更について

中　村　明　子（予研・細菌部）

昭和60年11月14日，伝染病予防法における「パラチフス」の取り扱いについて，厚生省保健医療局長より，各都道府県知事および指定都市市長宛に通知が出された。その内容は伝染病予防法に定める「パラチフス」の起因菌をパラチフスA菌に限定する。というもので，今後はパラチフスB菌およびパラチフスC菌が検出されても伝染病としての取り扱いはしないことになる。本通知が出されるに至った背景には*S. paratyphi* Bと*S. java*との鑑別をめぐる問題があった。

パラチフス患者あるいは保菌者からの病原体の検出・同定にさいして，一般には厚生省鑑修の微生物検査必携によることが多いが，本書によれば法定伝染病扱いの*S. paratyphi* Bと，一般のサルモネラ症扱いの*S. java*の両菌は，菌の生物学的性状，とくに*d*－酒石酸塩利用性の有無で区別することになっている。ところが，検査現場では*d*－酒石酸塩利用性試験の判定がかならずしも容易でないこと，判定までに数日を要し，行政対応に不便を生ずること，ある検査機関で陰性と判定された菌が他の機関では陽性と判定されるなど，両者の鑑別とその行政的取り扱いに対して問題整理の要求が高まってきた。それまでわが国では，これら両血清型菌の分離例が比較的少なかったため問題は顕在化しなかったが，1980年以降これらに該当する血清型菌（Salmonella血清型1，4，(5)，12：b：（1，2））の分離例が増加したため，現場での混乱に拍車をかける結果になったものと思われる。

公衆衛生審議会の中に設けられた腸チフス小委

員会（福見秀雄委員長）では，パラチフスの取り扱いを適切なものにするため，1980年以降数次に亘ってその病原体，臨床像，疫学などについて検討を重ねてきたが，その結果を腸チフス小委員会報告にまとめ，1984年12月3日の厚生省公衆衛生審議会伝染病予防部会に提出した。本報告は審議会で検討，了承され今回の局長通知となったものである。

腸チフス小委員会報告の要旨は以下のとうりである。

1）*S. paratyphi* Bと*S. java*との鑑別の細菌学的問題

両菌の鑑別性状とされていた*d*－酒石酸塩利用性，酢酸ナトリウム利用性，粘液堤形成，抗原構造について，腸チフス中央調査委員会（事務局，国立予研ファージ型別室）に収集されていたパラチフスB菌約200株について調べた結果，いずれの性状も鑑別のきめてとならないことが判明した。とくに*d*－酒石酸塩利用性は，同一株で陰性から陽性へ一方向性の変異が起っていることが確かめられ，両者を異なった血清型の菌として位置づけることは適切でないと結論した。

因みに，1984年にWHOの指定する国際サルモネラセンターが発表した最新のサルモネラ抗原構造表によれば，*S. java*は*S. paratyphi* Bの中に包含され独立した血清型にはなっていない。

2）*S. paratyphi* Bと*S. java*との鑑別の臨床的意義

腸チフス・パラチフス・サーベイランスシステムに基づいて収集された患者管理カードに記載された臨床症状を比較検討した。患者からの分離菌が*d*－酒石酸塩利用性陰性の事例も陽性の事例もともに胃腸炎症状を主徴とし，両者を別扱いにする必然性は見出せなかった。

3）パラチフスAとパラチフスBの臨床像における差異

パラチフス患者管理カードの分析の結果，*S. paratyphi* Aによる事例ではバラ疹や脾腫の頻度が高く，血液から菌が分離される頻度も高かったが，*S. paratyphi* Bによる事例では胃腸炎症状の発現率が高かった。

4）パラチフス原因菌の自然界における分布

S. paratyphi A，*S. paratyphi* Bおよび*S. paratyphi* Cの自然界における分布を検討したところ，*S. paratyphi* Aは*S. typhi*同様，ヒト以外から分離されることが極めて稀であるが，*S. paratyphi* BおよびCは，各種動物，食品，水など環境からの分離が比較的多く，自然界にかなり広範囲に分布していると考えられた。

以上の他，両菌による患者発生の疫学分析の結果からも，パラチフスAとパラチフスBの間には一線を画すべきであろう，との結論を出した。

ミニ情報

★命名委員会からのお知らせ

国際細菌命名規約の日本語訳は，1953年，1969年に続いて，1981年に1976年の改正が日本語版として学会誌刊行センターから出版されています。その後の部分的な規約改正については，International Systematic Bacteriology（IJSB）に掲載されることになっておりますので，発表され次第，本ニュースの紙面をお借りしてお知らせいたします。

また，1985年以降にIJSBに公表された細菌および酵母学名リストは，年1回，日本細菌学雑誌に発表いたします。

〔光岡知足　東大農・実験動物〕

★細胞バンクについて

皆様の研究に細胞株を使う機会が多いと思いますが，昨年より国立衛試を中心として細胞バンクが設立されています。登録されている細胞ですと所定の細胞供給依頼書と合意書を送付しますと，供給が受けられます。

連絡先　〒158 東京都世田谷区上用賀1－18－1
国立衛生試験所　細胞バンク
03(700)1141（内線460－462）

〔野沢龍嗣　順大・細菌〕

理事会ニュース

6月27日(金) 開催された理事会(昭和61年度第3回理事会)における主な報告事項及び審議事項は次の通りです。

報告事項

1) 第61回総会は，岡山大学医学部金政教授が会長で，63年4月5日(火)～7日(木)，岡山後楽園プラザホテルで開催される予定。

2) 編集委員会(横田理事)より，日細誌掲載の速報は委員長の審査により，約2か月程度で印刷されるので，priority確保のため，振って利用されたい。

審議事項

1) 評議員理事選挙検討小委員会(加藤理事)より，日本細菌学会会則のうち，評議員選挙細則，理事選挙細則および評議員の運営に関する細則の一部改正を行うことが提案され承認された。

2) 日細誌投稿規定13.「原著については……」を「原著については1篇4万円，短報については1篇1万円を学会が負担，残額を著者から申しうける」と改める。 〔光岡知足理事〕

集 会 案 内

第31回ブドウ球菌研究会のお知らせ

と き：昭和61年11月7日(金)，8日(土)
ところ：大阪会館 大阪ガーデンパレス
〒532 大阪市淀川区西宮原1-3-35 TEL. 06-396-6211
世話人：朝田康夫(関西医科大学皮膚科学教室教授)
入会などのお問い合わせは
ブドウ球菌研究会事務局
〒213 川崎市宮前区菅生2095
聖マリアンナ医科大学微生物学教室 TEL. 044-977-8111 内線3446

第7回 理研腸内フローラシンポジウム

テーマ：「腸内フローラの代謝」
日 時：昭和61年12月4日(木)
場 所：ヤクルトホール
主 催：理化学研究所動物薬理研究室
協 力：ヤクルト本社

「Congress on Bacterial and Parasitic Drug Resistance」
1986年12月10～13日 Bangkok

The Infectious Disease Association of Thailandの主催で上記の学会が行われます。日本よりの参加を希望しております。詳細については下記へお問合せ下さい。

明治薬科大学微生物学教室 新井俊彦
TEL. 03-424-1001

微生物学協会・ＩＵＭＳについて

合　田　　朗（北里大・衛生学部）

微生物学協会は，学術会議の改変後の微生物学研究連絡委員会が発足するに当って同時に理事の改選が行われ，18団体から推選された理事18名と２団体から推選された方の２名を監事に決定した。猶会長は引続き桑 藤樹 先生に，副会長も 有馬 啓 先生，佐々木 正五 先生にお願いすることゝなった。又微研連の委員長に新井　正先生がなられたので今後緊密な連絡を取って会を運営して行くことを確認した。

ＩＵＭＳは本年役員改選の年であり，日本としては有馬先生を会長に，佐々木先生をDivision of Bacteriologyのchairmanに推す様に定め，立候補の届を出すと共にその達成に向け努力することゝした。又1990年のDivision of BacteriologyおよびDivision of Mycologyのlnterdivisional Congressを日本に於て開催するための立候補の書類も送付した。若し此れが受入れられた場合は開催地は大阪とし，阪大三輪谷教授にBacteriologyを 千葉大 新井教授にMycologyのお世話を願うことも決定した。猶今後の活動のために，日本交通公社の関連企業である国際会議事務局㈱とジェイ企画㈱の協力を求めることゝした。

支部評議員会記事

◉第１回評議員会

日時：昭和61年１月28日㈫ 16：00～18：00

場所：帝京大学病院本館２階第２会議室

出席者：新井俊彦，川上正也，北野繁雄，木村貞夫（支部長），工藤泰雄，河野　恵，高橋昌巳，中村明子，野沢龍嗣，早津栄蔵，久恒和仁，平山寿哉，三上　襄，山口英世，吉川昌之介（第55回支部総会長），池田達夫（幹事）

欠席者：島村忠勝，光岡知足

議　題：

1．第55回支部総会準備状況（吉川総会長）

すべて独立講演様式で８題が予定されている。一般演題の募集はなく，ポスターは配布するがプログラムは発送しないとの報告があった。

第56回支部総会準備状況（寺脇総会長）

寺脇総会長より第56回支部総会のスケジュールとして10月16日～17日，松本市中央公民館で開催されるとの電話連絡があった。

2．新評議員会の運営方法について

支部活動を活発にするため下記の小委員会が設置され，各委員長と委員およびその分担が決定した。

学術集会小委員会（６名）：新井俊彦（委員長），河野　恵，北野繁雄，中村明子，三上　襄，光岡知足，教育小委員会（５名）：川上正也（委員長）島村忠勝，久恒和仁，平山寿哉，光岡知足，支部ニュース小委員会（６名）：山口英世（委員長），工藤泰雄，高橋昌也，野沢龍嗣，早津栄蔵，光岡知足

・学術集会小委員会新井委員長より，第57，58回支部総会長候補を複数（２～３人），次回評議員会までに選出する予定と報告があった。

・教育小委員会川上委員長より，前教育委員であった島村委員（現教育委員）と打合せの上，近日中に会合を開く予定であるとの報告があった。

・支部ニュース小委員会山口委員長より支部ニュース第４号の原稿依頼があった。

3．その他

1）評議員会議事録の確認の件

2）評議員会の開催日は原則として土曜日に行なうことに決定した。

3）１月27日現在の支部会員数は正会員1429名，学生会員71名，計1500名と報告。

4）第２回評議員会は61年５月17日午後２時30分から帝京大学病院本館第２会議室で行うことに決定した。

◉第２回評議員会

日時：昭和61年５月17日㈫ 14：30～16：30

場所：帝京大学病院本館２階第２会議室

出席者：新井俊彦，川上正也，木村貞夫（支部長），工藤泰雄，河野　恵，島村忠勝，高橋昌巳，寺脇良郎（第56回支部総会長），中村明子，野沢龍嗣，早津栄蔵，久恒和仁，平山寿哉，三上　叟，光岡知足，山口英世，吉川昌之介（第55回支部総会長），池田達夫（幹事）

欠席者：北野繁雄

議　題：

1. 第55回支部総会準備状況報告（吉川総会長）

2. 第56回支部総会準備状況報告（寺脇総会長）一般演題締切は7月16日，講演原稿締切は8月15日までとする。特別講演は1題，シンポジウムは4題を予定している。

3. 第57回および第58回支部総会会長選出の件第57回総会長候補として金井興美副所長（予研），第58回総会長候補として緒方幸雄教授（杏林大）が推薦された。支部長が交渉の結果いずれも受諾された。

4. 各小委員会報告

学術集会小委員会（新井委員長）：上記総会長推薦の件について報告された。教育小委員会（川上委員長）：支部会長の実態調査アンケートのまとめについて報告された。また支部総会の演題数を多くするための方法が検討された。支部ニュース小委員会（山口委員長）：従来の型にはまったニュースなどは掲載せず，読者である会員にとって有意義なものを載せる。その他，アナウンスメント，印象記，新任教授の紹介，諸解説記事，バイオハザードの問題などを掲載する。原則的に年2回発行する予定である（今年は1回のみ）。

◇編集後記◇

合田前支部長の時代に創刊された支部ニュースは，ほぼ年2回のペースですでに第3号まで刊行されました。これを引き継いだ木村現支部長も支部ニュースには大変熱意を示されておられます。編集委員の交代などの理由から刊行が大分遅れましたが，ようやく第4号をお届けすることができました。

上記小委員会報告にもありますように，新しい企画を出来るだけ多く取り入れてゆきたいと考えております。とくに本号を御覧頂いてお分りのように，細菌学ならびに関連領域において話題となっている事項の解説や有益な情報の提供などに力を入れてゆく積りです。次号からは従来通り春秋年2回の刊行を予定し，内容につきましても一層の斬新充実化をはかりたいと念願いたしております。つきましては，会員の皆様にはぜひ紙面の構成や編集方針などについてご感想，ご意見などをお寄せ頂きますとともに，記事原稿をどしどしご投稿下さいますようお願い申し上げます。

吉川昌之介会長主宰の春の支部総会は大変盛会でした。次回は寺脇良郎会長により風光明媚な松本市での久しぶりの開催となります。会員の皆様にはふるって参加され，秋の信州を楽しんで下さい（Y）。

日本細菌学会
関東支部ニュース
第4号
（1986. 8. 15）
編集・発行：日本細菌学会関東支部
〒173 東京都板橋区加賀2-11-1
帝京大学医学部細菌学教室
☎ 03-964-1211